



# 拾遺都圖繪

五冊

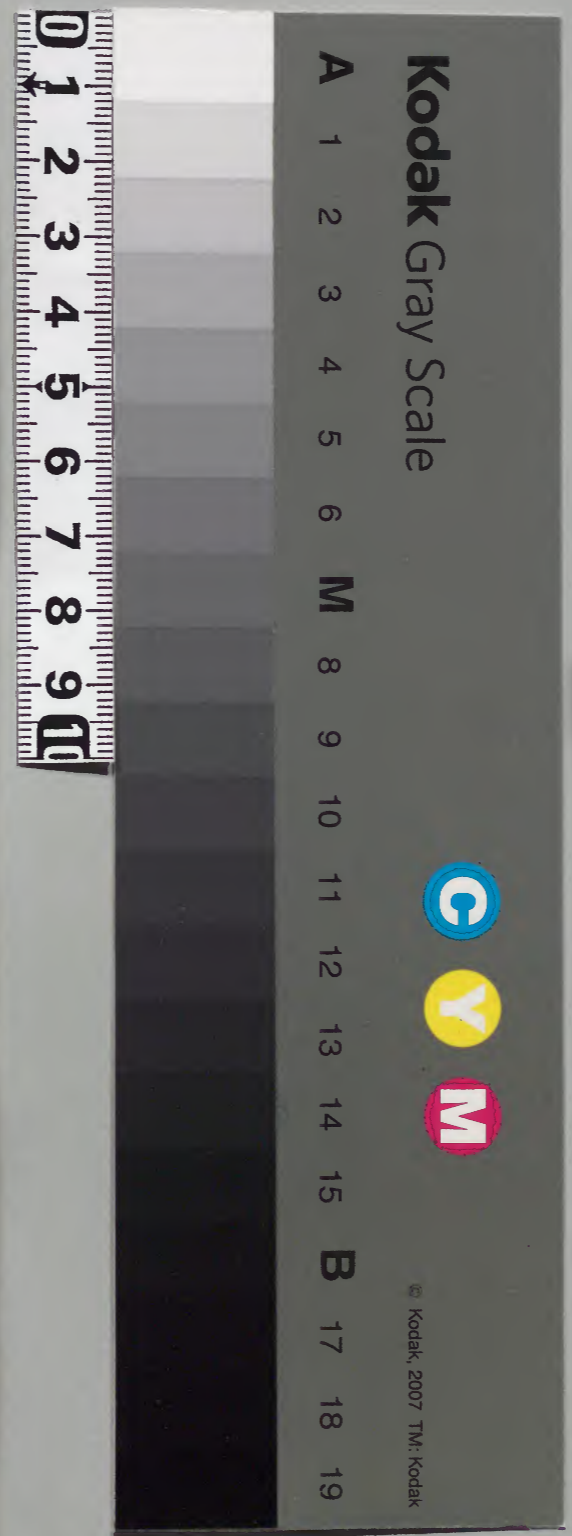
農商務省  
農商圖書  
第七號  
共五冊

大政官文庫  
和書門  
一三七八  
五冊  
函架

內閣文庫	
一三七八	和書類
五冊	
函架	

內閣文庫	
番號	和 11378
冊數	5 ( 5 )
函號	172 180

風土



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

拾遺都名所圖會卷之四

前朱雀目録

城南神社  
 大日堂  
 御所用  
 竹田里  
 國分寺  
 下多野甲大王  
 鴨川曝  
 赤井原  
 達摩堂  
 上津彦年頭大王  
 淀堤  
 龍雲寺  
 成菩提院  
 近衛院  
 五品寺  
 久我殿  
 横大路  
 淀城  
 橋本  
 一口  
 善福寺  
 桃山天満宮  
 新萱堂  
 多那比化  
 竹田街道  
 西行寺  
 石茶師  
 久我神社  
 樋尻渡  
 水垂  
 川口大神  
 御牧八幡宮  
 天武帝社  
 関元寺  
 茶師堂  
 常念寺  
 勝光明院  
 竹田山王  
 龜井茶師  
 御所屋鋪  
 愛宕祠  
 八幡山  
 内里王塚  
 御園原  
 伏見皇居  
 立賣

明治十三年

隆開寺  
天王山  
田中社  
金岡宅  
普化墓  
頓阿庵  
平等院  
宇治田原  
真言院  
栗林  
巨掠神社  
榎本八幡  
久世神社  
富野大神

八科峠  
金ヶ辻  
願行寺  
本幡川  
浮舟宮  
免道里  
法皇堂  
大浄堂  
禪定寺  
鷲峰の石場  
伊勢田神社  
三田坂  
水主社

本幡開守屋鋪  
浄妙寺  
淡茶師  
五箇庄  
玉碯石  
朝日山  
釣月  
八幡宮  
龍安寺  
白川  
栗隈大神  
興聖塔婆  
警坂  
白釋迦

等泉寺  
本幡神社  
不焼地蔵  
黄檗山  
三室戸山  
喜撰嶽  
栗子山  
三宮  
善福寺  
巨掠堤  
七ツ墳  
指月塚  
長沈  
推尾山

常盤井  
任吉社  
觀音寺  
大黒寺  
森住吉  
念故寺  
有馬稻荷  
往蓮庵  
津州里團店  
嘉祥寺聖天  
真宗院  
善福寺  
霧谷

伏見陵  
東本願寺懸所  
大光明寺  
西方寺  
明壽院  
徳本町大満宮  
去番町神明  
了峯寺  
道澄寺  
仁明帝陵  
霞谷  
猿丸大夫墳  
桓武天皇陵  
海寶寺

栢月  
浄懸西岸寺  
本教寺  
聖恩寺  
光照寺  
白菊井  
正覺寺  
西岸寺  
常安寺  
安樂院御廟  
履  
鎮守松  
車塚  
西福寺

中書嶋辨天社  
源空寺  
金札宮  
西本願寺懸所  
寶國寺  
蛭子社  
墨染塚  
西休寺  
石峯寺  
法華堂  
貞觀寺  
女御貞子墓  
栢原野  
希成就院



市野辺梵天  
 井出山風穴 下馬石 有王芝  
 神童子社  
 普賢寺溪  
 下狗若一王子  
 土師  
 誓願寺  
 上狗里 御霊社  
 泉橋寺  
 瓶原離宮 清見河系  
 岡田山  
 笠置山名石細圖  
 稲電  
 王水井 井出寺  
 藪 神南谷  
 薪 茶師堂  
 段々良都谷 白権現  
 藏園山大神  
 相樂  
 動觀音 荒神石  
 椿井寺辨天  
 西村 御妻社 國守  
 加茂社  
 加茂社  
 笠置皇居回蹟  
 井堤左大臣回趾 井出川  
 光明山寺跡  
 大神森  
 草内  
 稲八間武内祠  
 本津川 樺井  
 本津 市坂春日社 念佛石 あり  
 鯉奠石  
 井平尾菜切石  
 法善寺野  
 東明寺  
 陶山小見山夜討道  
 玉川水車  
 鳥居里  
 興戸酒屋祠 郡塚  
 飯岡  
 祝園春日社 大塚  
 大智寺 衣堂 頸洗池 泉式  
 椿井里 松尾社  
 加勢山不動  
 浄瑠璃寺 郭公  
 栗柄大満宮  
 兒瀧

上鳥羽  
城南神社

厚さう  
多ね乃  
田面や  
寒の雨  
せせ茂



山本



四

禁裏の洞進  
 旅の市百海  
 魚の具  
 肥と  
 行乃こ  
 葬福



鳥羽  
 化道



鳥羽上洛外にて四ツ塚より南七町小あり上なる所は鳥羽と二村小の所  
也路四ツ塚より南七町小あり上なる所は鳥羽と二村小の所也  
徒然草曰鳥羽の地は道に遠く居たり  
元良親王元日の奏賀に聲甚殊勝にして大極殿より多ねり  
道まて昇入する李部王の記に傳りしなり

續後撰 雲井飛つるの羽月をそとと田乃里に衣らり  
新續 白多の名多姓れを風吹く風小多多田の子苗末とりく也  
後鳥羽院 後永徳拾政

野山の道心園空法師の所也  
高野山の故今の所也  
阿彌陀佛坐像六すむり  
野山の道心園空法師の所也  
高野山の故今の所也  
阿彌陀佛坐像六すむり

出火悲歎と見て大心驚と靈驗を近小著しくれを群衆とる事終り  
出火悲歎と見て大心驚と靈驗を近小著しくれを群衆とる事終り

大日堂弘法大師の所也  
大日堂弘法大師の所也

藥師堂坐像三尺寸也  
藥師堂坐像三尺寸也

戀塚日所大日堂の南側也  
戀塚日所大日堂の南側也

鳥羽戀塚者文覺為源渡妻所築也  
鳥羽戀塚者文覺為源渡妻所築也  
不孝不義吾生不如死欲以身當之乃伴諾曰請失我夫而後可以  
不孝不義吾生不如死欲以身當之乃伴諾曰請失我夫而後可以  
設酒與源渡相獻酬使臥於奧婦自沐而待之盛遠約去婦還  
設酒與源渡相獻酬使臥於奧婦自沐而待之盛遠約去婦還  
去黎明視之則婦之首也盛遠甚哀即為僧所謂文覺是也其後在  
去黎明視之則婦之首也盛遠甚哀即為僧所謂文覺是也其後在  
高雄遙望埋婦之處名曰戀塚世俗所傳蓋如此鳴呼婦孝干母義  
高雄遙望埋婦之處名曰戀塚世俗所傳蓋如此鳴呼婦孝干母義  
干夫節干其身雖丈夫不過此也長安大昌里之節女同日之談乎  
干夫節干其身雖丈夫不過此也長安大昌里之節女同日之談乎  
秦之懷情臺以貨淮之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉  
秦之懷情臺以貨淮之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉  
曹娥之孝溧水女之貞其碑其名古今不泯此婦之名亦然乎彼之  
曹娥之孝溧水女之貞其碑其名古今不泯此婦之名亦然乎彼之  
戀之者在色耶在節耶不可不擇也浮屠之有塔銘猶如碑碣也  
戀之者在色耶在節耶不可不擇也浮屠之有塔銘猶如碑碣也

願主正保四年十一月二十九日  
願主正保四年十一月二十九日  
惟孝惟義石可泯兮貞名不已  
惟孝惟義石可泯兮貞名不已  
羅山子撰永井日向守直清  
羅山子撰永井日向守直清

瓜の名産へ城の相里と  
 詠ふれど今もけ多羽小地  
 きたる甜瓜其味やと化  
 境小勝まで祭法小と  
 夏と秋との紀ふを用  
 と多し又南史又  
 いく膳量とよ  
 その五歳の時毎  
 幾病候患て寒の  
 中小瓜と食せん  
 事汝母の膳量  
 四方と歴訪とんと  
 も後々事候つた  
 何ふいふ乃神仁  
 出て扱ふ後凡あり  
 とて一と分て相  
 遺う人々まき瓜足  
 て寒瓜ありとふ小



四山

驚異と足至孝  
 の天小通とや  
 瓜

初瓜  
 美菜瓜

登瓜  
 瓜  
 瓜





城南神社

城南神社の御祭神は... 喜武出系... 平安城... 七社... 名倉... 塔... 生土神... 常念寺... 城南神... 若宮... 三光社... 御所内... 鳥羽院... 小殿... 地... 字... 馬場... 離... 千載... 鳥羽院

御所内

御所内の御祭神は... 鳥羽院... 小殿... 地... 字... 馬場... 離... 千載... 鳥羽院

千載

千載の御祭神は... 鳥羽院... 千載... 鳥羽院

成菩提院

成菩提院の御祭神は... 山槐記曰... 成菩提院の念佛... 山槐記曰... 成菩提院の念佛



皆  
 軽  
 の  
 上  
 風

衆雲

竹田街道と通る車  
 牛ハ日毎小伏見より  
 都へ貨物と換ゆるこ  
 安暑みを夜取目小  
 かく牽通る牛の  
 疲まごふ要意  
 ちく牛取飼へ乃  
 あしひなりとそ



勝光明院 古記小曰多相ありと今日此詳あり後延享二年二月  
二十三日多相の勝光明院と慶と導師の忠尋 聖殿の寛歎 其日  
帝 上皇六宮百司の集會を預ると云云  
古今著聞集曰

久壽元年二月十五日 法皇英福門院沖回車に鳥羽乃車懸り  
勝光明院へ清幸まで意の橋と清原を往り若阿保院と清原を  
竹田 勝原の云り小阿り洛陽東院油小洛等の有るあり伏見往來乃  
順路ありいみへ真幡守の庄と号し今安樂寺院北門少し西の街板  
真幡守の辻と号し又日院民の外板龜若の辻といひ一竹田山王宮乃  
社司龜若氏の宅地ありと云

玉葉 久壽元年二月十五日 法皇英福門院沖回車に鳥羽乃車懸り  
少彦と竹田の系不啼と川のすかむり我ふと云 坂上布女  
後頼

堀山皇 久壽元年二月十五日 法皇英福門院沖回車に鳥羽乃車懸り  
少彦と竹田の系不啼と川のすかむり我ふと云 坂上布女  
後頼

近衛院 編年集曰久壽二年七月廿二日近衛の皇居崩し  
八月一日船岡山の野小葬なり御骨板知足院小安堂と云  
御練抄曰長寛元年十一月廿八日近衛院の御骨板多相の東殿美福門院の  
御塔小波一奉侍と云  
享保二年 大樹吉宗公 御治世の初免歴代帝陵の清改あり具記小曰山城園紀  
伊郡竹田村仁和寺清鎮の肉畑中小あり  
美福門院の旧地と云

西行寺 不動院の小あり多相院北面佐友を清憲清は所小別館を場と鳥  
羽乃仙院へ近道を保え之年七月二日 多相院若清の後と云

後頼 久壽元年二月十五日 法皇英福門院沖回車に鳥羽乃車懸り  
少彦と竹田の系不啼と川のすかむり我ふと云 坂上布女  
後頼

山王大宮 安樂寺院のむが一氏居の小  
十禪師社 大宮の東せるありにあり支社共  
保延年中 鳥羽上皇城有難宮に  
何れは御勅ありしと云一社額魏々として神領あり御祭ハ神樂成り  
催馬樂走馬等ありは里長谷川武具其時の武ありて赤藏と今四月廿四日  
御幸社 西の方より三町あり此社ありて則山王の清原所なり  
御幸社 西の方より三町あり此社ありて則山王の清原所なり

猿塚 竹田の端伏見地にあり土人庚申塚と号し一は地白猿塚  
竹田山王権現親向の地と云又又分ちの若田原と云猿塚とあり何れも  
竹田里高津川の所あり存る阿弥陀佛ハ春日の元一立像二尺  
又其頃光明台の清願ありて園毎又園分尼寺成達て女僧成候しむ  
其旧記の記ありて分明なり

國分寺 竹田の端伏見地にあり土人庚申塚と号し一は地白猿塚  
竹田山王権現親向の地と云又又分ちの若田原と云猿塚とあり何れも  
竹田里高津川の所あり存る阿弥陀佛ハ春日の元一立像二尺  
又其頃光明台の清願ありて園毎又園分尼寺成達て女僧成候しむ  
其旧記の記ありて分明なり

九品寺 日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主

九品寺 日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主

九品寺 日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主  
日村園分ちの南ありの伽藍用基記曰當古本朝才七十四主

石薬師 日村安楽院の東門の北の亀井茶師 日村常楽あり多持法印の

田中天王社 下鳥羽の森の北あり宗神牛頭天王下鳥羽横大路等々の

久我暇 道の上鳥羽の南の端西側より入ッ塔の森板徑桂川の下流久我

久我神社 上久我あり妻妻明神と号し土人土神と凡例系四月己巳代

久我神社 實録曰貞觀八年八月十四日丙戌山城國正六位上興我万代継神

六帖 本々ふるも若る若紫せり久家の森流れ海や時魚しん 光俊

八幡宮 右の社乃云々 御所屋敷 久我のいより公家の所然之其別業

本清寺 日村氏居乃中あり法義宗ありて開基の眞備法師

鴨川 村の名と久家の坊ありは所氏居乃云々桂川乃下流あり一面の

横大路 横大路の町乃 樋爪 樋口 横大路の南にありは所より

愛宕社 富森にありは赤井河原 あり桂川の下流あり赤井橋といふ

淀 京師より南の方三里ふる頭住密勤ニ云々淀のよとみ坂つみろの

川とつても桂川鴨川宇治川本津川等のわらありと流れをよ

のわりえぬ流れ標の標を繩六のせりといふ

みかんを流さんと云々も標の長くもかや後の川系 正三位 隆茂

五月雨のむむ標ても朽つて波ひりり後乃河系 藤原隆信 朝臣

淀城 初岩城主税助の築所之具後秀吉公の清藤中は所に在りて後

水垂 鴨川桂川赤井菱川小北直々人家あり南の山崎横津園路

阿弥陀寺 水鏡あり津土宗ありて奉尊阿弥陀佛立像三尺五寸計

弥陀次郎宅 城の標あり家中町の地ありは所

淀渡 秀吉公の時時大橋小橋孫橋板架良いあり一一流の大河ありて舟

清少納言 卯月の晦日小長谷寺にまはして後の後とつみろのせり

松雙紙云 車をうたてて行く小長谷のまはしてのせり

これのせり

のり

のり

のり

のり

のり

のり



後拾遺記  
二日の上れ  
しらべく  
くまらり  
つと後野小  
くまらり  
左京実方



八幡山 從大橋より十町計ありは地ハ八幡宮清遷坐より北ハ大橋の南爪限て悉く神領ヲシテ橋爪小守護不入の標旗建る別名男山あり

雄徳山 書に嶺を香呂峯又鳩嶺と稱し山下に民家十餘町あり

八幡山 十二景 德山靈社 洛城瑞霞 石水清涼 醍醐霽月

天台積雪 淀橋斜照 狐川征帆 伏澤落鴈

難波滄浪 山崎曉鐘 嵯峨暮烟 朝山晴嵐

頼風塔 由縁前縁ふりくあり

達磨堂圓福寺 幡志水町の南高野街道の右あり禪宗ありて造營を遊観

當宗の徒才雲水遊歴の僧侶旅あり免て專禪定と修せん為小一尊

宿舎と發願せまは地と寄附きて依藍の境地とあり又庵室一宇と施與する

僧堂旅設く一宇の禪刹と大應國師と因祖とあり又ツの古蹟旅場と

坊地の西多三堂舎と様靈像此地藏尊と安一傍の室と西末の宿屋と

達磨大師像 坊地の東坐禪堂不安至る示はる像ハ大和國片岡山達磨寺ハ

長 松達磨堂の西楠葉道の傍あり枝葉四が小繁茂して冬の色益覆

橋本 八幡山の南あり大坂街道の驛ありて人家の地十一町あり茶店旅場

金河 橋本の南あり南郷ありあり源云りの溪より

金橋 右の川小架と橋をけ橋山城

川口天神宮 男山のより十町をり川口村民家の東あり系神天満宮

殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃

又殿を造り園院乃神宇統宗安樂寺乃傍聖迦天神神自画乃



四十一  
山長

幣原  
圓福寺



八幡宮

ほろく  
おろ  
改  
う



勘二限太新浦

總領坂持素よりくまひを今も伝わり土人坐土神と例系ハ

九月九日なり  
御池 宮の辰己二町をくりあり毎年五月四日

内里王塚 八幡志水のむぐり内里村の中心あり内里 岩田 津 松井

帝陵御改之記曰今撰津國嶋下郡大田村あり嶋上嶋下兩郡の場之

牛頭天皇社 内里のむぐり十町をくり上津屋村あり土人坐土神と例

御霊社 上津屋の巽十町をくり岩田村あり系神津霊八所の具一ハ

一口 養業とけけ所あり一ハ内あり一ハ津國より宇治に至る順路なり

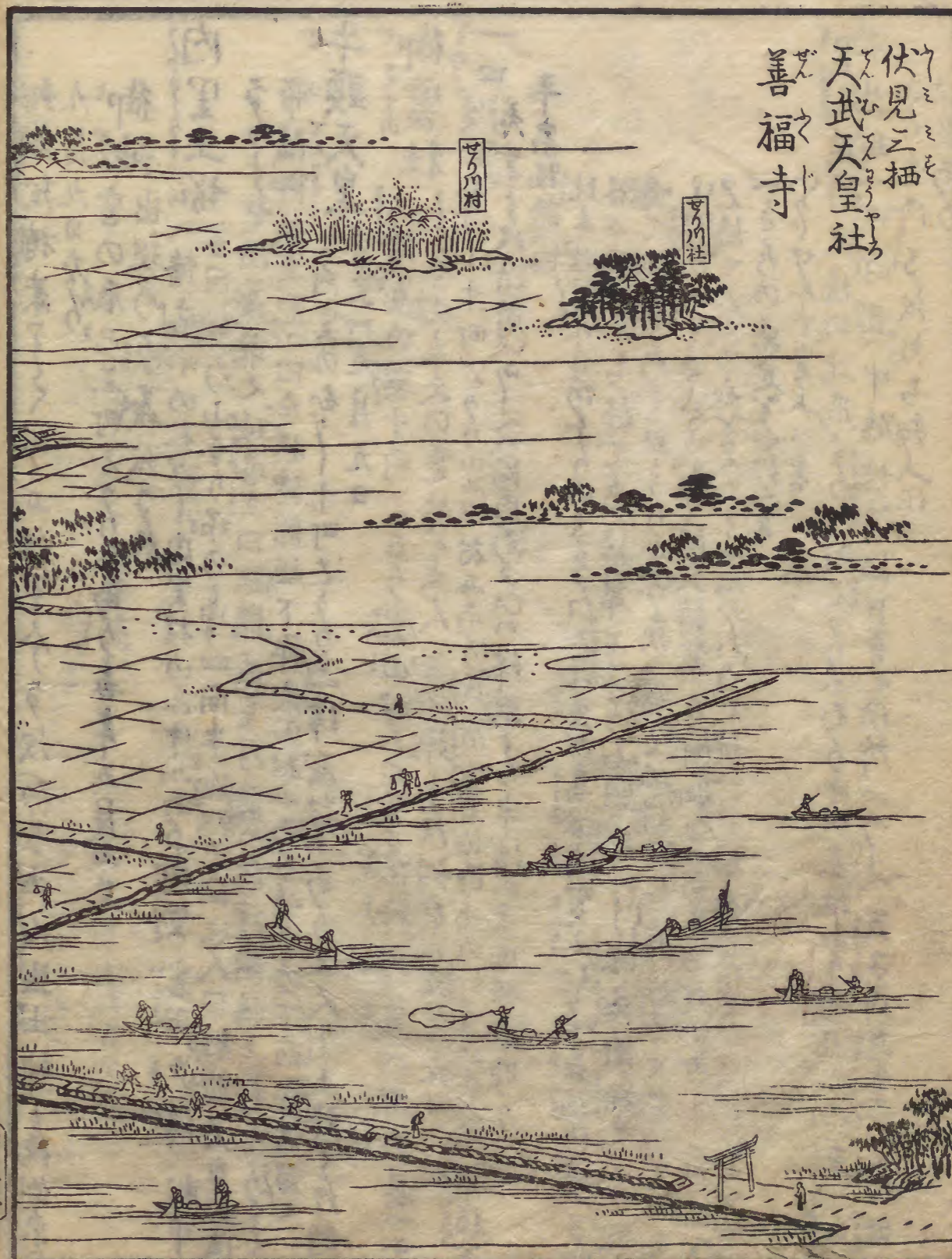
平家物語曰

比と睦朔光日ありのるるれ此良の高根志賀とむり長柄の雪もま  
谷々の氷けち解てあり折席をさるり向良根張落松大了  
鳴て逆巻ありも早くりりり夜に曙とむり霧除く立籠て馬の毛  
足踏て人々の心をそんとやせりれん定一口へや向をさすは内後へや迎  
べとあゆの落足とやゆづき

いりせんとて入下署

御牧 西一乃大橋の北爪より八町をくりあり中多村あり嶋田相傳東一口  
ありて津屋敷にあり飼ふ人





御牧八幡宮 御牧村小あり系神五座八幡神功皇后 若宮 武内臣 春日

玉田森 日所の森

御園原 是より南の方諸村に深松原の年今ふた多し

淀堤 秀吉公の時時化ると

醫王山善福寺 上二極あり東院と号初は基菩薩乃開基也

脇士 二天坂安堂

天武天皇社 下三極あり系神 天武帝は地所鎮坐の年祀詳あり

系れぬ大松 明燈社 神樂の

伏見 義隆より初二里日津紀と俯見とあり和香小を墨竹のふたの里

舟産村 森村 久米村 法安寺村 石井村 小内村 山村 即成院村

等之文福三年秀吉公津城より町小治建徳とて西園より東園小國へ

伏見皇居 舊跡詳あり一説津香の東南の地なりと云九十一代の帝

風雅集 八月十五日伏見小津幸ありて月の形

軒を松原と乃林風の書きく月出ぬり 伏見院

松原山 秀吉公津城の本丸の地と今古松繁茂

弘雪堀 城山の内ふり国陣 弘雪 旧之惣とて城山及び伏見乃町小治

宇治見山龍雲寺 城山の内字二河原ありて本尊觀世音

に安堂はけ初教賀町あり正徳年中珍恭本尚中興しては寺

山天満宮 龍雲寺のありて東あり之大師自化の御安堂

乃僧忠菴より授龍福山藏老菴の鎮守と云は天神乃津社をさ

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

護國山開元寺 江戸町あり禪宗にして漢磔山大鵬和尚創之本尊ハ

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

立賣 氣地中の周て諸本の冠早所の民家多く法系と山細

是凡土の奇といは

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

乃靈瑞多し故小子安祈禱の秘府と云

軒  
 去年の  
 敷  
 うさく  
 花  
 鬼貫



伏見より大亀谷坂  
 経て大津へ河不  
 道へ秀吉公伏見  
 津並城の附より用  
 初一今も同様の  
 列侯吾妻へ系勅  
 一の人附を  
 海道と通る  
 東海乃  
 磁さゆ人



關工  
 阪本  
 新橋

伏見城の龍雲寺の  
 やと方十町と云ふ  
 ね千株乃梅花あり  
 孤生の紅艶の色  
 坂わたり宇治見ふ  
 より眺一ほふ  
 して宇治川をる  
 柴舟小倉入江の水  
 物多お竹田の切人  
 徒の城八幡の碁の  
 翠密もも眼ふ  
 ありて驛人乃心  
 坂動一々

宇治見山

龍雲寺



叱咤時移霸業空  
 百年葵麥動春風  
 金湯變作桃花塢  
 遠近霞照千里紅

東涯先生



桃林

天祥

常盤井

御香宮乃南常盤町のありた馬頭義輔の妻室常盤清前は所...

平治物語

伏見陵

二月九日の夜ふ入て二人乃れさあれたと云うて... 常盤井の山石谷傳光寺... 伏見の勝地... 宇治川のほとり...

指月

江戸町の西の地... 伏見の勝地... 宇治川のほとり...

豊橋

指月より西の地... 伏見の勝地... 宇治川のほとり...

向嶋

豊橋の西の地... 伏見の勝地... 宇治川のほとり...

中書嶋

豊橋の西の地... 伏見の勝地... 宇治川のほとり...

辨

年中隆心和尚の如く再建せり... 毎歳六月廿五日...

住吉社

社あり古松あり形蟠龍の如し... 草創して奉傳阿弥陀...

東本願寺

御坊あり聖徳太子の御位... 長四尺二寸...

霜露天涯堡  
 苦來侵鬢毛  
 坐驚年序早  
 獨對月明高  
 孤館冷殘酒  
 故人寒贈袍  
 鴻書過未達  
 尚向客中勞

南郭



長橋

山長

指月山  
 月橋寺



堤

油懸山 西岸寺 下御釜町あり 澤土宗ありて知恩院に属し 本尊阿彌陀佛あり 定朝乃化之像 三尺同基の雲海上人西蓮社

油懸地蔵 門内の小堂あり 安産に地蔵尊の石像長五尺他は 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

源空寺 新大黒町あり 澤土宗ありて 國老大師の舊跡二十五箇所の一 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

觀音寺 觀音寺町あり 本尊觀音の石像一尺五寸あり 寺記曰常盤宮あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

大光明寺 大光明寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

金札宮 金札宮あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

大黒寺 大黒寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

西方寺 西方寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

聖恩寺 聖恩寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

西本願寺 西本願寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

本林住吉社 本林住吉社あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

明壽院 明壽院あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

光照寺 光照寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

安産院 安産院あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

彌陀と稱するありの縁あり

十夜佛と號す 藥師堂 門内の東にありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

本教寺 本教寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

金札宮 金札宮あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

大黒寺 大黒寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

西方寺 西方寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

聖恩寺 聖恩寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

西本願寺 西本願寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

本林住吉社 本林住吉社あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

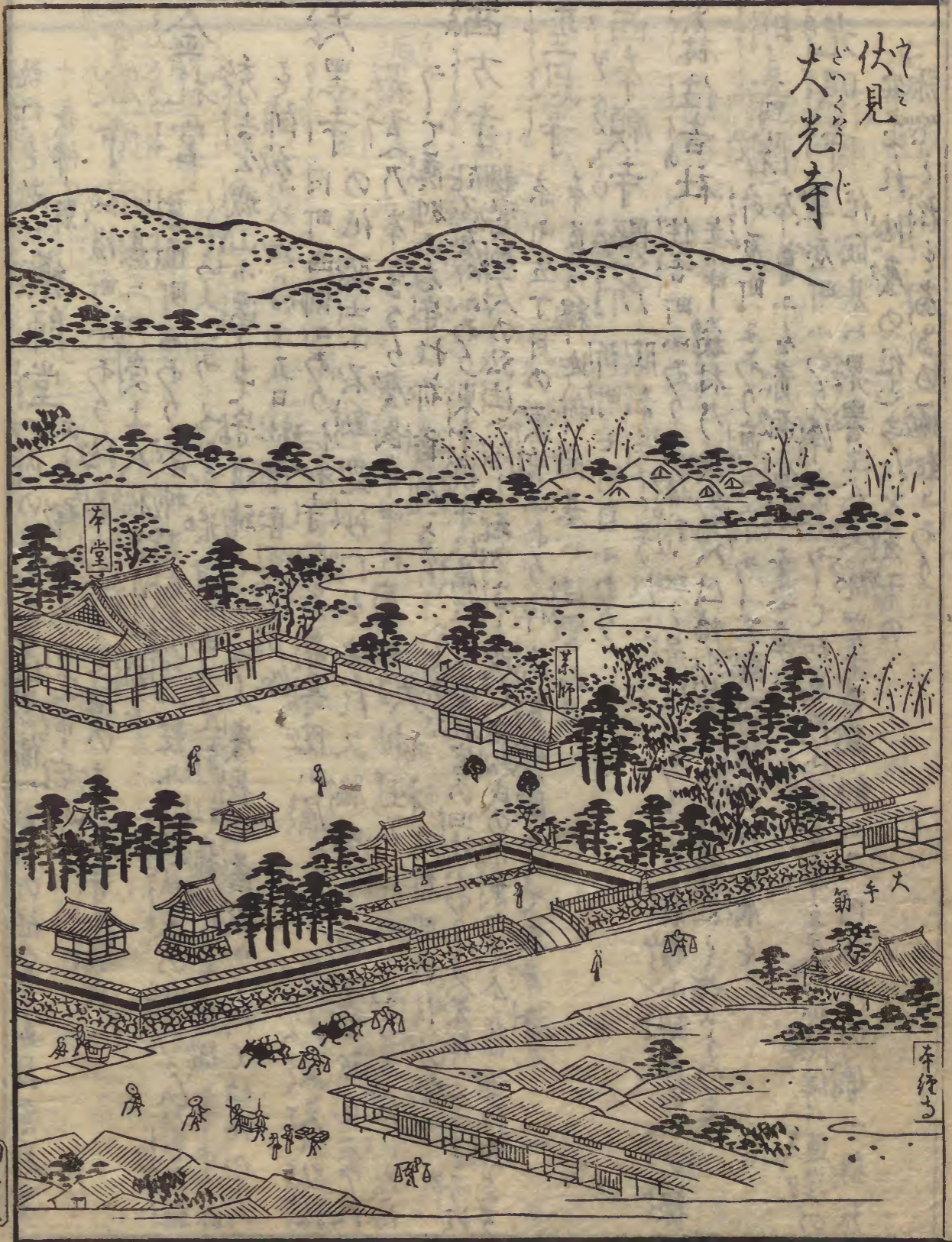
明壽院 明壽院あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

光照寺 光照寺あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

安産院 安産院あり 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて 澤土宗ありて

彌陀と稱するありの縁あり

伏見  
大光寺



伊澤

伏見  
大光寺



三福寺

三福寺





伏見中書嶋  
辨賊天

伏見京橋  
住吉社



松静  
寺  
の  
冬木立

斑竹



山長

寶國寺

馬場の場あり... 知恩院に属し本尊阿彌陀佛を

観音堂

立せのり... 延鎮の元ありて

清水寺と同時... 江別観音寺の

念故寺

聚楽町のわづ... 知恩院に属し本尊阿彌陀佛の傳教

天満宮

本町のわづ... 天正十八年の草創

白菊井

板橋七軒町あり... 蛭子社

右馬箱荷社

山本氏守... 左神宮

正覚寺

墨深あり... 本尊の三尊佛

墨深桜

所をわづ... 今詳あり

世継物語云

今いひく... 墨深桜ありらうりき

山長

又墨深寺の... 長谷川等伯の筆あり

あられて... 墨深の桜

けり細川玄吉... 短冊寺あり

種蓮菴

近松庵... 常設場あり

了峰寺

日所筋... 洛陽宗仙寺に属し

西岸寺

本尊の釋迦佛... 西本願寺に属し

草鞋影

親鸞聖人の... 草鞋の影

玉日君墓

堂乃南... 玉日君の墓

西休寺

松樂町あり... 知恩院に属し

草創あり

草創あり... 長九年の

西休寺

松樂町あり... 知恩院に属し

草創あり

草創あり... 長九年の

草創あり

草創あり... 長九年の



漆草里 一箇の勝地にしていづれより高貴の山莊寺院の大厦多し

鶉の名所なりて古人の秀吟多し

新古 漆草や誰古くとも忘れぬ衣うらと 家隆

漆草や誰古くとも忘れぬ衣うらと 土御門院

漆草乃名産の土釜凡爐具外土工の類尾師の云々の下ありて

一木ありてを産業として又蕃椒の樹の園をいづれよりは里の多むにして

道澄寺 漆草筋遠橋小六町目小あり本尊地藏尊の形基の他ありて立像

常安寺 日所小あり漆草土蔵ありて本尊阿弥陀佛又門外の南に小堂あり

石像五百羅漢 漆草石峰寺後山小あり中央釋迦牟尼佛長六尺計の坐

山に於て法衣を穿て相あり羅漢乃像あり長三尺計の坐

嘉祥寺 日所僧房村の傍に安樂行院の境内にあり本尊の聖天尊

仁明天皇陵 今漆草帝陵改記曰漆草安樂行院の内に一堂あり是

安樂行院御廟 日所堂前南向あり後陽成院中和門院の清骨院

華堂 漆草の院今の中門の所に塚あり是を塚の附土中六尺あり

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

漆草や露やいつるる若の杖とるをねゆ

真宗院

安樂行院の云々あり、津土宗行て西山深草院後の本寺

佛殿の額龍護殿と書して二重屋根、同外陣乃中興、くわん

通西軒、佛殿の云々あり、地居女人界内、許さだして藩屏と

鎮守社、佛殿乃云々あり、愛宕坂、當寺の後醍醐帝の本願寺

用と、園空上人の寶治年中、草創して初の地、云々あり、二町を

押の方、今氏家の間、み菘あつ所の所と云、具所、長又尺、云々の五嶽

霞谷、南の谷、今の如く再建あり、真宗院、云々あり、

古今、草創、雲の谷、今を云々あり、照目、云々あり、

夫木、系、云々の谷、今を云々あり、

伏見院、帝陵記曰、原草、云々あり、

履鼻、安樂行院の西、僧房、申、西の方、町計、云々あり、

貞觀寺、舊地、今の町、北の二、院、深草寺の地、貞觀寺、云々あり、

善福寺、寺の祖、願、知の孫、祐、願の長、男、延、云々の所、云々あり、

猿丸、大、墳、町、西、田、間、云々あり、

鎮守、松、東、戒、壇、云々の所、あり、

女御、貞、子、墓、今、詳、云々の所、あり、

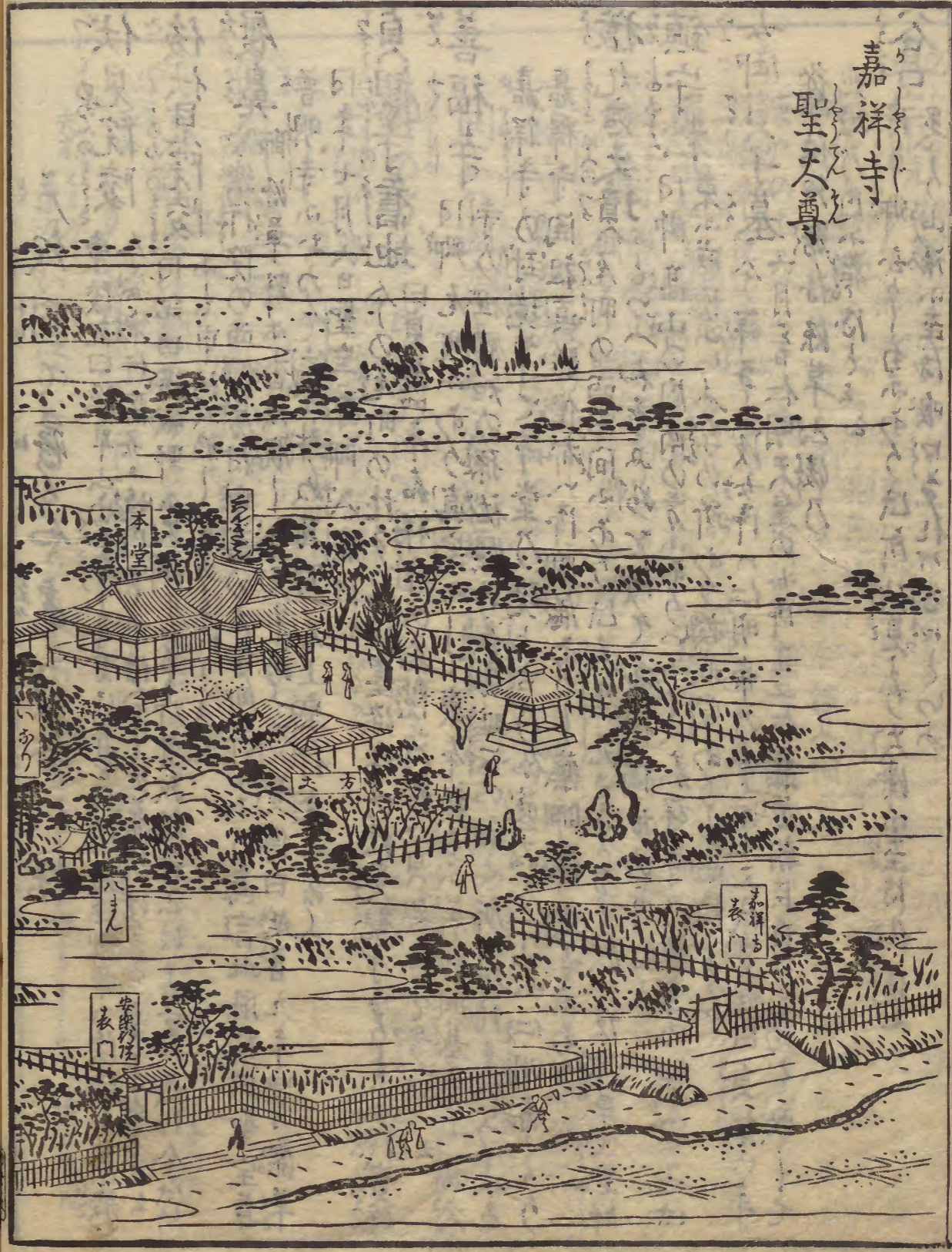
谷口、山、谷、今、至、云々の所、あり、

戸坂、因て、云々の谷、これ、煤

安樂行院  
草



嘉祥寺  
聖天尊







桓武天皇陵

土人谷口氏云、桓武天皇陵は至り、

延喜式曰、桓武天皇陵、平安宮、小津、宇治、山崎、桓武天皇なり。山崎國紀、桓武天皇、山崎國、東八町、西三町、南五町、北六町、世宣の角、北二ツの峯、乃、谷、加、入、守、戸、五、畑、と、云、江、次、弟、曰、指、荷、山、の、南、北、野、

山崎國紀曰、伏見、山、松、原、の、中、に、あり、

編年集曰、桓武天皇、諱、日本、根、子、皇、統、珍、照、尊、又、山、部、親、王、と、云、光、仁、

帝、身、一、乃、皇、子、を、り、延、曆、二、年、都、を、山、崎、長、岡、に、遷、し、同、十、二、年、

十月、廿、一、日、都、を、山、崎、國、平、安、城、に、遷、し、同、二、十、五、年、二、月、十、七、日、崩、御、

類聚國史曰、延曆二十五年二月辛巳、天皇崩、冬、未、乃、日、山、城、國、

葛野郡、宇治、野、に、於、て、山、崎、の、地、と、云、大、井、比、叡、小、野、栗、栖、野、等、の、山、々、

おのづから、燃、る、日、赤、し、て、光、を、射、し、大、井、比、叡、小、野、栗、栖、野、等、の、山、々、

山崎の地、か、を、左、神、小、道、一、疑、く、を、是、神、威、災、致、と、云、り、と、云、

即、山、崎、に、從、り、て、龜、從、り、だ、今、災、異、頻、ふ、を、慎、む、を、祈、す、と、云、

立、所、を、鎮、す、

桓武帝を今の京城を開たれ、

平安城百王の社、今時一千有餘載、乃、星霜、歴、れ、

とも遷都、な、れ、い、ま、ご、中、華、を、そ、の、た、め、一、派、聰、に、白、麟、

黃龍、乃、瑞、の、あ、り、と、云、れ、と、云、天、下、の、四、民、泰、平、の、化、小、俗、一、幸、也、

皇城の市、都會して、雜貨、販、交、易、し、あ、る、雲、水、の、勝、と、訪、

て、神、窟、佛、擺、振、を、觀、と、云、と、云、か、皇、德、の、彰、明、す、て、天、慶、

又、膺、億、年、を、彌、ら、ん、と、云、を、お、は、ん、と、云、

車塚、右、陵、より、亥、子、の、間、一、町、計、の、岸、に、あり、皇、天、皇、帝、神、華、の、風、輦、と、稱、

神樂、墳、谷、の、氏、居、の、か、が、一、町、を、り、大、路、の、南、に、あり、傳、云、嘉、祥、寺、鎮、守、

拍原、野、谷、の、西、北、野、と、云、桓、武、帝、依、拍、原、天、皇、と、號、し、拍、原、陵、と、稱、

霧谷、谷、の、口、の、か、が、一、町、を、り、

福聚、山、海、寶、寺、觀、音、の、尊、像、を、有、す、上、町、の、禪、宗、黃、檗、派、に、屬、す、て、本、尊、

虚空、藏、右、の、將、軍、地、藏、と、安、坐、す、共、に、本、化、用、基、の、美、禪、山、十、二、世、果、堂、和、尚、

那、里、山、二、代、乃、居、所、佛、殿、の、額、海、寶、禪、寺、と、書、き、二、世、法、嗣、に、當、

乃、法、國、湖、別、府、德、島、縣、乃、以、り、姓、を、陳、氏、と、し、

火、光、鏡、南、京、乃、傳、來、す、て、當、寺、第、一、の、什、寶、と、す、



御工殿本新繪

西福寺

西福寺 乃乃... 大龜谷... 阿彌陀佛... 聖德太子... 長久八寸

釋迦堂

釋迦堂 乃乃... 當寺の記曰人皇九十六代の帝 光教院

五ヶヶ

五ヶヶ 乃乃... 光教院

即成就院

即成就院 乃乃... 光教院

隆剛寺

隆剛寺 乃乃... 光教院

八科峠

八科峠 乃乃... 光教院

木幡園守屋敷

木幡園守屋敷 乃乃... 光教院

等泉寺

等泉寺 乃乃... 光教院

天王山

天王山 乃乃... 光教院

本幡金辻

本幡金辻 乃乃... 光教院

平治物語

平治物語 乃乃... 光教院

明十日

明十日 乃乃... 光教院

舍人

舍人 乃乃... 光教院

中

中 乃乃... 光教院

津妙寺田蹟

津妙寺田蹟 此地蔵町より宇治道乃南一町餘河以段東入る宇治二町を  
 新後捨遺集後遺集面白みまうりて津妙寺小送りせられたり河常みま日序の

本幡山君のゆかりありしとせらるる藤を並しき

高階宗成

本幡神社

本幡里路乃水あり柳大明神と号は  
 或記云一多分山牛の類小まをて日毎不多く死しせむを郷民  
 神の神祈念し多くと駭かりしに神巡衛殿へ参りては事後終れ  
 中々れを仰ふ云し所乃神依れりてそと神居あり柳明神はまに  
 と参入仰れ心を敬養て終せられし神殿小捧けやせりたりし  
 けりしは此て作りと  
 るんや修人たる

あられる柳の神ありしとせらるる

辺衛應山云

田中社

田中社 旧所民居のわ一町計林の中あり

尊勝山願行寺

尊勝山願行寺 本幡里あり奉尊阿彌陀佛の天照を神乃告命ふりし  
 中本幡流の宗祖阿彌陀佛の宗祖に尊勝上人の宗祖に尊勝上人の宗祖に  
 定観の子之法然上人滅後相別深倉光明寺乃祖良忠上人と師範とて宗  
 乃要義と修学しスケ年経て後歸ては地依草創して本幡山尊勝寺  
 と号しそれより年経て荒廢おこしと十九世深倉上人天正年中中真一令  
 乃如く號改改再建せり

濱薬師

濱薬師 同所里乃東あり村上寺と號し本尊薬師佛の海峽出現此像  
 之像七寸又傍の小堂の觀音像安奉之因基不詳

不焼地藏

不焼地藏 村上寺乃南あり計像七尺計像一は所圓縁乃時以發像をて林中坐  
 と四方を瑞氣感して後人感へ故小不焼地藏と稱し因基を教山和尚

金岡宅

金岡宅 傳云画工金岡巨幡小住宅此今詳さり金岡傳云光孝  
 天皇乃本兼ありて姓と紀氏諱の園深號の普天子又朝日阿爾梨  
 とり宇多天皇仁和四年勅小像を所乃障子鴻儒乃修儀書に

旧記二曰

賢聖の障子の南殿あり

賢聖の障子の南殿あり 八間各 東四間ありて一間 馬周  
 四人 劉禹鋤 杜如晦 房玄齡

二間

諸葛亮 蘧伯玉 張良 第五倫

三間

管仲 劉禹鋤 子産 蕭何

四間

伊尹 太公望

西四間ありて一間

李贇 虞世南 杜預 張華

二間

羊祜 楊雄 陳寔 班固

三間

鄒玄 龐參 龐武 倪寛

四間

董仲舒 文翁 賈誼 叔孫通

平家物語乃乃源頼朝乃畫圖の市障子ありて一令圖書有りて遠く乃  
 有明の月と云々

本幡河

本幡河 本幡野乃西あり宇治川の支流ありて六地蔵の  
 東と云々宇治川入一徑宇治川の流あり

拾遺

本幡川ありし言の葉とされ名と云ひ流つせも

玉養集

いふせん人乃本幡川月をりしと後をせり

家隆



山長

木幡川



五箇庄 本庄より黄檗山に至る間より四方五ヶ庄あり山間庄小野庄

黄檗山萬福寺 地名張茨葉とて萬福寺乃由張茨葉編み起す

天王殿 山門の東上段の地布衣像 堂内中央

天王像 殿左右に各全身金色 左の東多門天 西廣目天

大雄寶殿 殿の東に本尊釋迦佛 堂内小安坐像 脇士左迦葉

阿難 共々金色あり 十六羅漢 左右の壇に安坐像 全身金色

威德殿 法堂乃後山西面小建若石階 祖師堂 北の方

達磨大師像 全身金色あり 費隱禪師牌 堂内

本尊觀音 坐像二尺計 脇士九善財童子 八歳龍女

加藍堂 右乃方小向 加藍神像 倚子小憑長衣長四尺計

禪悅堂 右堂の東 金奈羅像 中央の壇上小安坐像 全身金色

本尊地藏 坐像一尺七寸計 全身金色 浴室 食堂乃後小向あり高泉

開山堂 山門の内小向 隱之像 倚子小憑紫衣長四尺計 拂子取持し厨

勅書額 厨師號乃勅書なり其文小曰 朕聞臨濟之道徧行天下至天童雙徑光輝益盛唯我日域久之宗匠幸黃

乳簡在朕心 特賜大光普照國師之號以旌厥德欽哉故倫寬文十三年

壽藏 白内乃有面小あり壽藏の文字緋青紙に 隱之像 堂形六角ありて

隱元碑 壽藏乃下壇の地東の方あり碑石和泉石高一丈計 墓石龜形

特賜大光普照國師塔銘 碑銘の上乃方篆書 玳老和尚塔銘 賜進士出身光祿大夫禮部尚書上桂國

太子太師中極殿大學士燕山杜立德拜撰 壯遊湖海洞徹法源

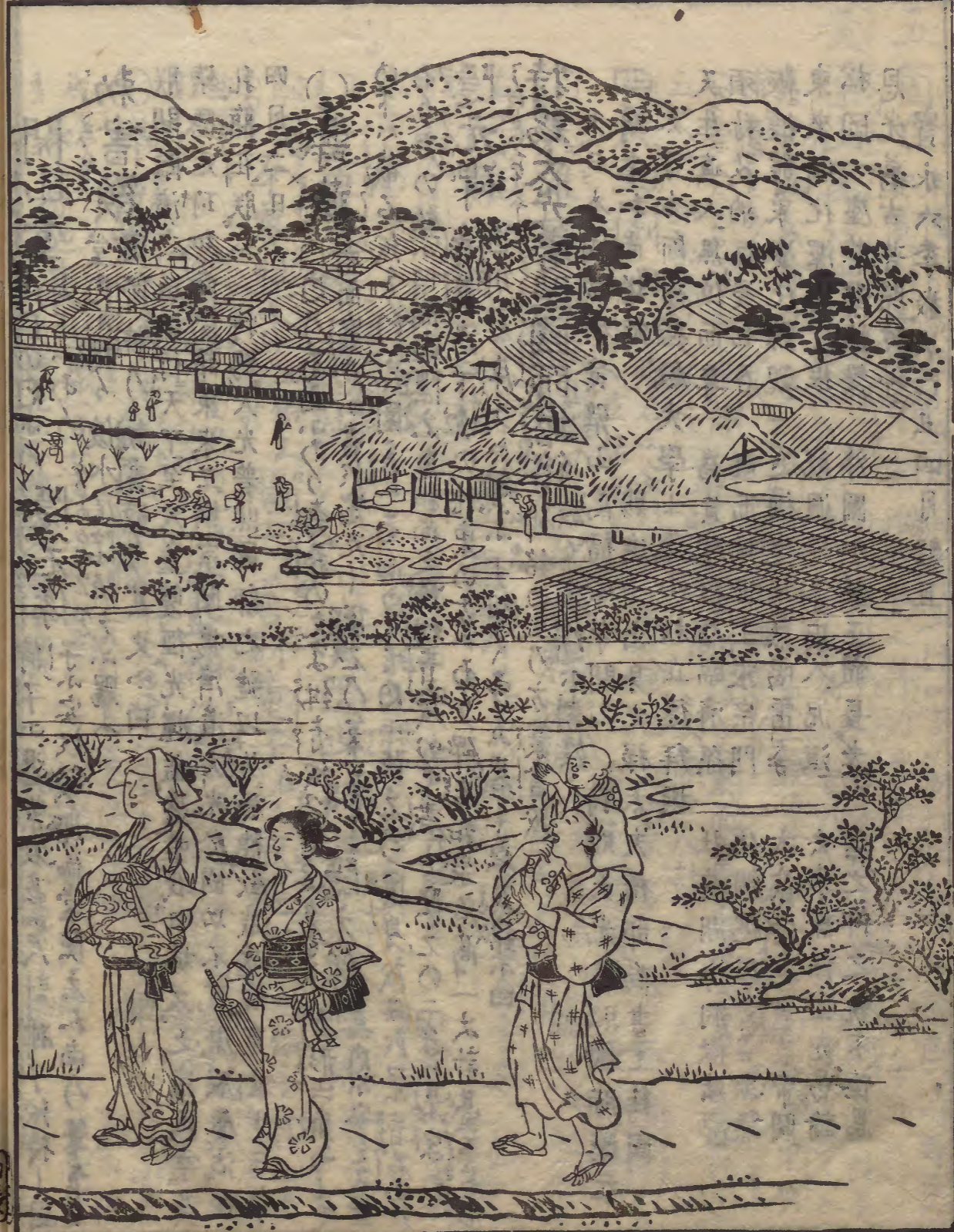
天生真人無位而尊 為黃檗祖乃臨濟孫 化網總握玄要掀翻

須弥鉢象變化鯨鯢 迅機電掃熱喝雷奔 大哉師也名震帝闕

東來同化潭被三根 既週能事疾入泥洹 去來無住生死曷論

松岡一座蒼翠惟繁 浮圖永鎮正體長孝 瞻之仰之執不懷思

寶光萬古普照乾坤 寶永六季歲次己丑四月穀旦



○舍利殿 廬山堂乃後之ありて類 勅書額 堂内小撮 後水尾帝より

勅言より其文曰 北天曾自奉南山古佛真身傳世間十萬里程靈骨暖三千年後異光斑

宋皇述讚感生相源將傾心欽定顏晨夕舉々服膺久壁峯永仰五雲間

佛舍利師寬文己酉十月朔日 舍利五粒 塔内 脇士觀音 坐像八九寸計ありて

同壇 龍後水尾院宸影 畫圖縮地法服 淨長二尺四寸拂子と 同壇右

韋駄天像 畫圖縮地立像 藏經印板庫 佛殿乃巽山上二町計あり一切

藏經彫刻乃本願鐵眼和尚より 寺ハ旗州難波あり

普化墓 苗葉門前の南二町あり信之申頃無僧の祖普化良彦と云ふ者墳

浮舟宮 普化より四町計南宇治路の右あり源氏卷宇治十帖乃内形あり衆神

三室戸山 三室戸寺の後右 右範卿墓 三室戸寺の内あり有範卿親鸞聖人

頓阿庵 三室戸の居候乃より草庵集 在乃中志のありて於之室戸の殿あり

宇治 免道と書以應神天皇の皇子菟道稚郎皇子は地不出居しと

子山城 園宇治郡あり北城東西十二町南北十二町守戸之烟云

今之離宮ハ離宮ハ皇子乃靈友祀あり宇治ハ京師より四里あり

乃原と云ふ乃原集あり千早掘宇治乃多柳乃多葉乃屋乃阿古ル

古今著聞集曰 宇治大庵の所宇治ハ白河院中葉あり其真性きざるふ今日

退道あり乃より終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

又宇治ハ花浴ハありて終して明日還道あり花浴ハ大白の坊ありて

宇治十二景

春岸 醜醜 清湍 螢火 三室 紅楓 長橋 曉雪

朝日 靄暉 薄暮 柴舟 橋姫 水社 釣殿 夜月

扇芝 孤松 植嶋 曝布 浮船 古祠 興聖 晚鐘



宇治橋

初、孝徳天皇乃作宇治大化二年小道昭尚、造橋造橋、日本後紀、  
治郡西、久世郡、形、五、宣、申、小、架、長、廿、二、間、五、尺、五、寸、橋、乃、東、瓜、八、宇、  
故、今、假、橋、依、の、り、近、年、寶、曆、六、年、山、城、近、江、洪、水、乃、附、は、橋、墮、流、と、是、

宇治橋銘

扶桑略紀に載せ  
撰者詳るるは

沉々横流 其疾如箭  
人馬亡命 徙古至今  
大化元年 丙午之歲  
爰發大願 結因此橋  
夢裡空中 導其苦縁

條々往人 倚騎成市 欲迫重次  
莫知抗葦 世有釋子 名曰道昭  
攝立此橋 濟度人畜 卽固微善  
成果彼折 法界衆生 普同此願

壬二集

宇治橋を夜半乃河風更ふり下り水のどとよりして

家隆

續後拾遺 弘安之年宇治橋修葺の日 龜山院清幸よりつふ

龜山院合道 圖白

これに橋を秦の尉咸陽の都として渭橋を造り漢を便門橋と名  
張良の圯橋より古書に授り相如の橋柱を題して駟馬乃車に  
系とけ橋桓武帝乃清時架し初より南方に喉口とあふ  
それより年より治承の初に橋を断て之井の法師等兩岸乃  
大軍を驚し之曆の又橋を引て先陣を争ふ兼久に乱及び

さびくの戦ひ小宇治勢田乃橋依り来りどく之物橋を星橋と  
て豊臣乃清代又この間の水と賞し霞におつる柴舟を小舟の  
瀬をとるを川舟の絶く小舟と舟の波ははらるるを岩間小よ  
つとく兼魚取取に河辺に掉さるるを堂の飛うるを興と  
美景空窺窺として山水の清暉を合虹乃影に河流に架すと  
寔に南方の奇観ありて象を鶴鳳にとりて李氷が造れる七  
星橋ともいひはざし

朝日山

離宮八幡興聖寺  
ふとの後山といふ

宇治里より

の東ありては峯より朝日出て

朝日山 離宮八幡興聖寺 宇治里より  
峯の日は暁より初に霞を穿てて  
照るるをた銀色三千界乃面影とす

新古今

林森とい宇治に川舟之こめて雲井小のゆる日山よりか

積大納言 公実

續古今

紅葉都の六朝日乃色をうらめをててうらめ川波

西園寺合道 前太政大臣

遠載

朝日山林森の雲乃卯花をさるる布とすいづるれ

元京太主 院補

喜標嶽と  
宇治より  
二里ゆいて  
檀川村乃  
の上云頂小  
高天牛の  
巖ありて  
具中心三平  
の石塔の所破  
るるを云云  
小字あり  
岩あり  
分明なり



喜標嶽

石標洞

興聖寺

宇治川



平等院

宇治橋乃南あり... 宇治白頼通公之諸堂... 宇治白頼通公之諸堂... 宇治白頼通公之諸堂...

埋木乃花や扇れ芝の露

宇治白頼通公之諸堂... 宇治白頼通公之諸堂... 宇治白頼通公之諸堂...

法皇堂

大納言隆國卿の舊棲り... 隆國の醍醐天皇乃孫... 隆國の醍醐天皇乃孫...

栗子山

栗子山... 栗子山... 栗子山...

神明宮

神明宮... 神明宮... 神明宮...



田原

宇治橋より午未の方二里あり此所綴喜郡あり  
岩本禪定寺熱田平岡大道寺棟樑南中村あり  
府中寺あり此地四面山ありて巽乃方小嶺あり  
高人多し又桑店あり

大御堂

流本村殿家の小あり堂菅乃堂少て額を普門閣と書し  
禪定寺月舟村尚の筆あり奉尊を十一面觀音立像又尺計  
は堂乃形東西より置つて堂に土人大江堂と号し又法興一小寺あり  
隣寺と号しはち之大江堂が守はへりへと堂舎巍々あり今も  
中より古代乃

八幡宮

田原皇子乃汗廟の上あり  
平岡村民居の西南林乃中あり祭神詳さくは土人生土神と  
三宮

龜井山真言院

岩本村殿家の有る成慶の上あり真言宗あり奉尊  
弘法大師の設けし所あり相傳鎮守日所あり祭神四所あり  
乃洞基の弘法大師の付り室小大師所持し又鋸杖あり近世再建乃  
時中院通村郷より賜りし人根おの儀幣あり  
題 古寺再昌の祝

ふ代の林とてめてたうんふ流たきふるもむれり云

普陀山禪定寺

田原郷中禪定寺あり禪宗曹洞派あり  
引て月舟乃筆之奉尊十一面觀音の定朝乃代あり之像長八尺  
脇士の文殊普賢長を二尺二寸計ありて同化共み厨子小安は四天  
王像長四尺計ありて應驗いらむ

地藏堂

佛殿乃あり延命地藏尊安は他日若ありて坐像  
五尺をくりは堂初免あり所あり乃方二町をくりて今地藏像  
ありは水溪とも号し

巖平山龍安寺

洞郷名村の民家小の方あり禪宗曹洞派あり奉尊  
千手觀音立像七寸計洞基の道之和尚當時奉尊  
巖みおよし道再建と舊地は所の異の山四町をくりて奇岩  
あり俗に道再建と舊地は所の異の山四町をくりて奇岩  
道之和尚再建

寂光山善福寺

日所民家乃南の方あり奉尊  
衛之尺又寸厨子小安は十二神將外壇不安は共り化  
祥ありは相好いと殊勝ありて妙あり

煮栗焼栗林

日郷名村の南あり由縁の茶縁ふり人しははさふ器し  
今も煮栗焼栗の如く焼る如く煮生るふ城七石と義の其一あり

田原郷  
禪定寺



猿丸  
城





金色院



宇治白川  
大権現山





巨掠堤 大井街道より伏見豊後橋より巨掠堤まで九五十町あり

初め宇治川より西へ入るる方伏見川流るる東より本幡里より西へ

巨掠神社 巨掠里街道の末より延喜式に出祭神長日明神

一基あり傳へ云當社とありある所の神賞罰教訓ありして社地あり

所乃一社を採ふと神崇罰しきゆふ他所ニ遷し今の神祀あり

伊勢田神社 巨掠乃押伊勢田村あり延喜式出後世梵天王社と存

栗隈天神社 伊勢田乃異大久保村あり順和名小載と久世郡栗隈

て天満神の社多し是則延喜式に出祭神代天神ありて百箇の内

あり土人これを辨としてみふ天満天神と存後綴喜郡天神森乃

古は所小栗隈三宅とありしを今も存す

ま本 山を乃田はくく女希を我ひくはくを也 長能

七ツ塚 大久保民家乃西二町計ありは所は七ツあり其間二二町

極本八幡宮 大久保乃西の方二十町あり佐山村の村乃中に

放生川 今埋んで田とす 武内祠 日村の乾

幡宮鎮坐記 山城國久世郡三郷村極本八幡宮の 清和天皇

神職本工頭橋良基 勅命を受けて尚小従ふと橋前

其後二郷乃静境を愛して後所とささんと橋前

是より男の借るる事日として怠る事あり又四隣

極本あり稍高くして枝葉を遠くよりこれを見れば

時小崇徳院清宇天治二年の二月男山嶋峯より毎夜

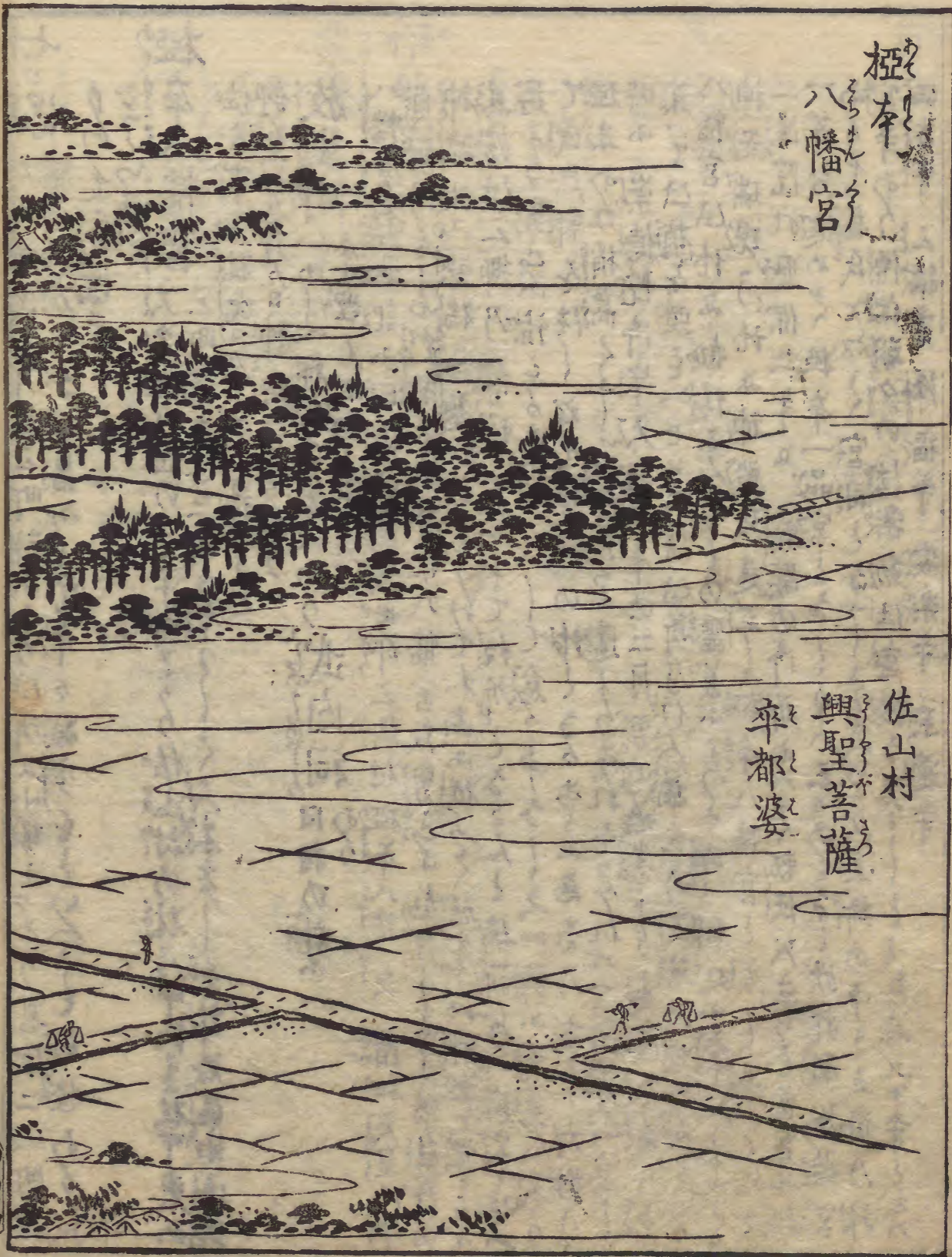
八幡宮は北に勧修寺とての靈堂あり朝延日時

神先瑞現乃北に神殿を遠くして極本八幡宮と号し

一等級進め極本一品宮とありしを人志のとき

宮寺あり僧侶朝夕の法樂勤仕怠慢ありしと云

西方寺ニ福寺 淨福寺 安樂寺 聖蓮寺



極本  
八幡宮

佐山村  
興聖菩薩  
卒都婆

西方寺

三郷乃内より久壽年中如一人の用所之本尊阿彌陀佛

三福寺

日所小あり興聖菩薩にて本尊の茶師佛坐像あり

淨福寺

佐山小あり本尊觀世音の安阿彌の仏ありて

藥蓮寺

林村小あり本尊藥師佛の定朝の化神劍

安樂寺

右日所小あり本尊の藥師佛に尺二寸他詳あり

興聖菩薩殺生制誠塔婆

佐山東の口あり今土中か壓して

指月塚

大久保の巽平河村民が乃東南小ありい

鴻嶋

車塚の小あり惣じては

久世神社

久世の南十四五町あり大和街道乃中

三田坂

久世の南十四五町あり大和街道乃中

久世鷺坂

久世の南十四五町あり大和街道乃中

小岳峯

日所と久より今

長比舊趾

長比村民居の東小二町計山の麓

富野天神宮 長尾村の西富野民居の良林の中あり又津霊社本社南

水主社 富野の西十町村水主村民居のなかう一森の中あり新喜式

白釋迦堂 水主村人家の間あり本尊釋迦佛の聖徳太子の能くして立

十六松 長尾の南大木街道の東側あり一あり大木の松十六本あり

推尾山 中村乃野野田乃東山あり

推尾龍 唐檀龍ともいふ

梵天宮 市野田の南多賀村卯辰の間あり

地藏地 玉水の北堤のふちあり名義詳なり

玉水井 長尾の南一里半あり

玉水井 長尾の南一里半あり

玉水井 長尾の南一里半あり

師侍

家隆

貫之

忠見

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

菰福

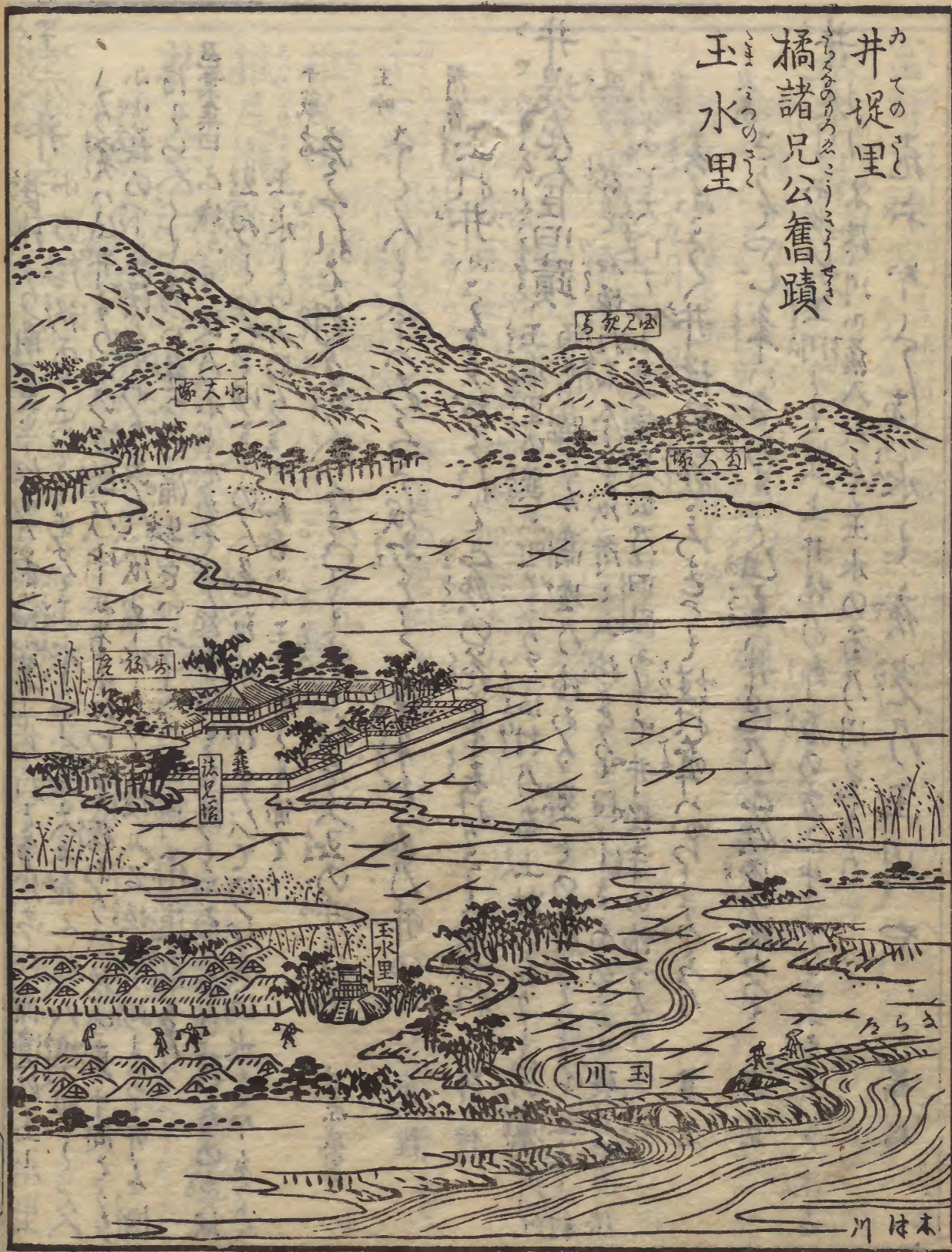
菰福

菰福

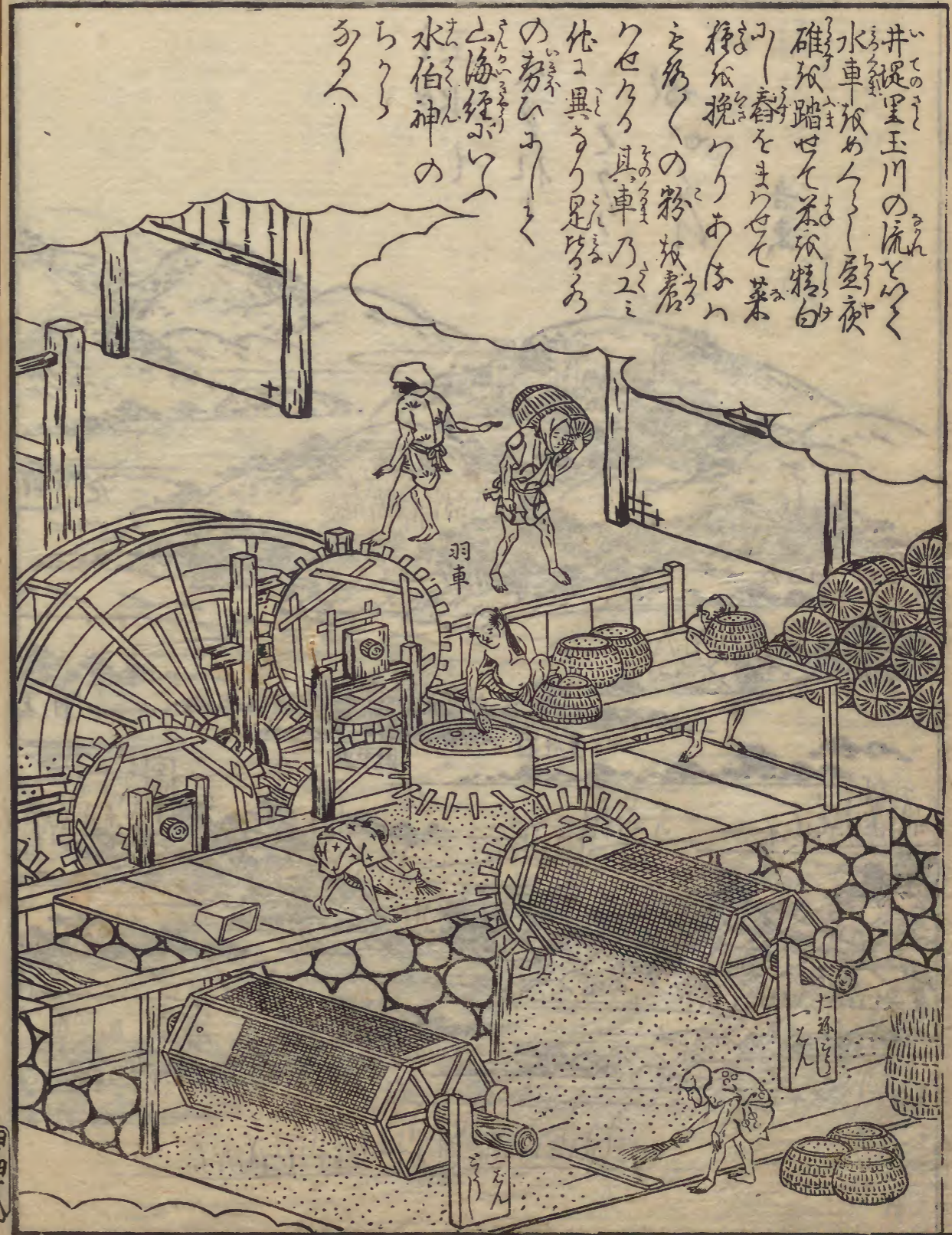
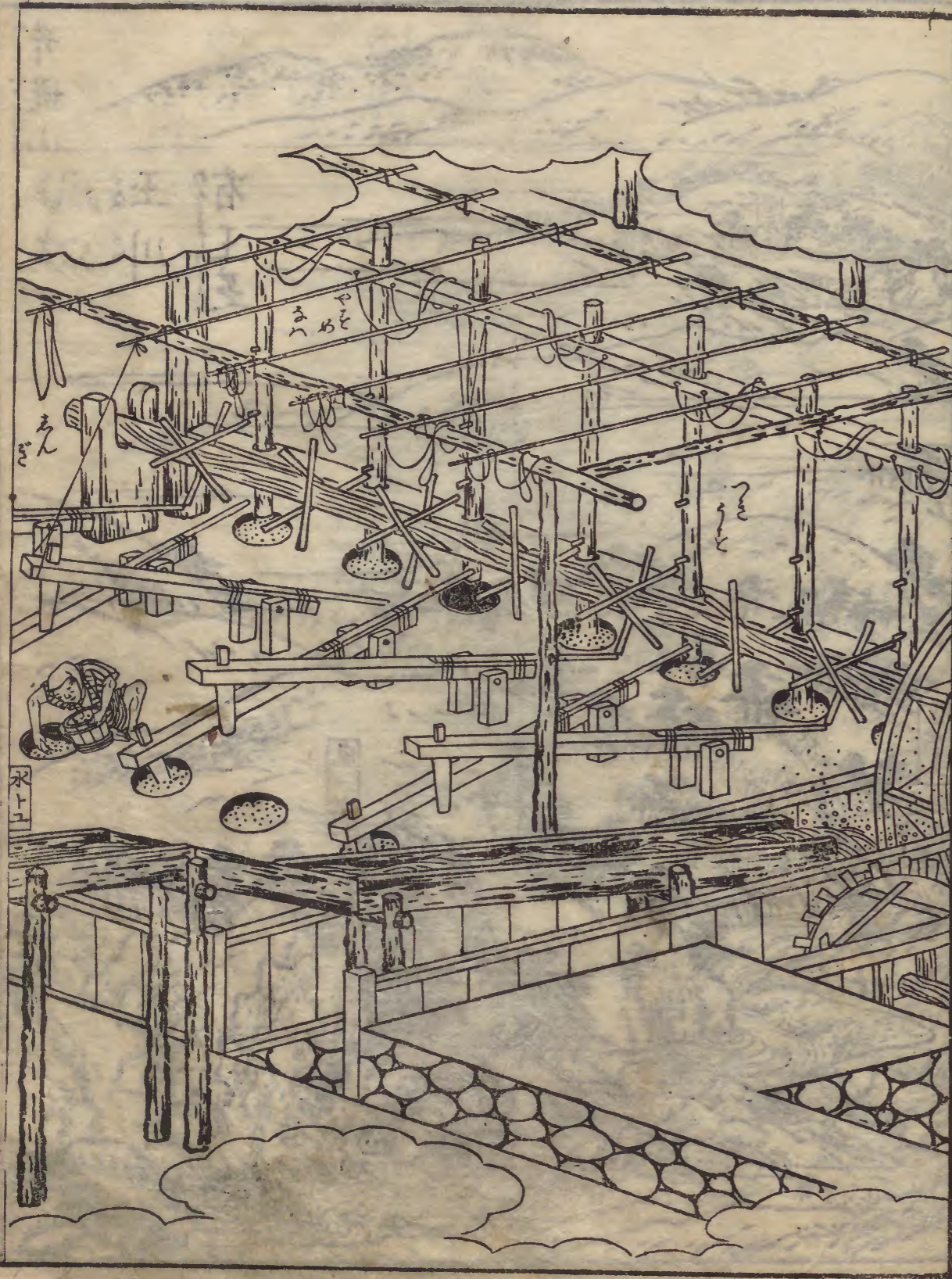
菰福

菰福

菰福



井堤里  
橋諸兄公舊蹟  
玉水里



井のついでに玉川の流とて  
 水車はあつてはるる屋敷  
 碓石踏せそ米は精白  
 川を渡るをまわそ米  
 粉挽挽りあはれ  
 とはく粉板磨  
 りせり具車乃工  
 体ニ異なり足はる  
 の勢いあり  
 山海經の  
 水伯神の  
 らるる  
 あり



井堤蛙舊趾 玉水里乃東の方あり今田とるにけ所乃家と此品花と

井堤茶藤舊蹟 玉水の東乃下井堤里あり又玉川のあふ植し

御集 山吹の花れきりしむいもあじこまぬまの井堤乃里人 順徳院

主集 ちるけりしと井堤の里人れむしむてささんふ夜れを 家隆

井堤中路 井堤里あり古乃春日社 井堤の二町計ありけ所

井堤山 上井堤のむぐりの井堤石橋 今絶てあし 中勢

井堤のふをさうたふさるまきまれば白をまへてそ 好忠

井堤寺旧跡 井堤山あり冷泉家記曰小野小町六十九歳にて井堤寺に於て死すと云

下馬石 春日社の下馬石なり 井堤の南乃谷依實御ふ入於奉一里餘あり其地右乃山腹に

右王芝 井堤の南乃谷依實御ふ入於奉一里餘あり其地右乃山腹に

風穴 井堤の南乃谷依實御ふ入於奉一里餘あり其地右乃山腹に

藪渡口 大木街道本津川乃流口に玉水の南七町とあり此園吐師の経

鳥井 荻の茂口の東乃堤奈良道のたれ里ありいしけ所は光明山寺にあり

光明山寺舊蹟 石垣村の南綺田乃云りいしけ所は光明山寺にあり

近世に地より観音の像現しけ所南北及び西乃方晴けりて

金葉 僧都頼基光明山小菴をぬとすてはかりける

法とる小あやの月影のふほるたて花をそと

拾遺 名産と山里直木をよ詠と

玉吟 五月雨のころ紙をそ泉川物ふんをそと

夫木 山をそと山をそと

神童寺越 狛里の良あり四面をそ中ふ小若神童寺あり則神童ち所乃

名と山をそと山をそと





薪村 定大橋より野乃方二里許あり其間多村野多し大橋南爪より野乃  
岩田 園村 山王 等の民屋東西ありあつた中旅通ふつて薪天  
十町餘あり地境あり下下載はわたり乃ありて本津川流るは  
薪村の遠近織て巻野の薪造を高くし

藥師堂 薪の坪二十町計神南備の麓あり本尊藥師佛の慈覺大師の  
化之坐像云々又餘は堂下あり神有候のひ上あり近來あり遷  
天神社 薪の南の雙々天神社本備あり久しかりは所より八幡小至は  
南小至を興戸補北高本越津 菱田 僧房 祝園 土師 坂経て大

酒屋社 南興戸民居乃西山上あり延喜式小載は後喜郡酒屋神社足  
郡塚 日所里乃根津町とあり田乃中あり上小古松ありとされと郡塚と

普賢寺 興戸乃有二十町計ありは所の總名ありて溪を西より  
方々大和街道あり其間の里の高本 段々良 上村 水取 高船 内田  
天王村等之

都谷 段々良村乃西小五町計あり人王二十七代 繼體天皇の皇居ありし  
日本紀曰 繼體五年辛卯十月都谷山背の筒城小遷と云は地小皇居あり  
しゆ中頃小およそと公同下司等侍て御調物取下ととを具  
末流るあり

白山権現社 段々良の西上村ありは所の字は津所内とて天福の近衛  
禰上村乃大平堂の別則普賢寺とて之を基通公の建立とて普賢寺  
天王 普賢寺溪乃西の上あり村れと云

草内渡口 本津川をわたり十餘町あり  
飯園 高本のをり十餘町あり

若王寺 下村民居乃南小あり當寺若王子の神宮寺之今津土宗此僧  
脇手 觀音立像云々又智證大師自修の像あり坐像云々計  
禪定乃桐ありては乃手を重ぬ

若一王子社 佛殿の稻荷社 日所小  
傳云當寺ハニ井乃智證大師の園基りて古ハ物産巍々たり又最勝寺  
の道智和尚は寺の座主たりはゆ小駒僧正と云ふなり

圓満院塔 若王寺の小田乃中あり五輪高サ一丈計 園備院ハニ井乃  
藏園山天神宮 若王寺ハニ井乃中あり五輪高サ一丈計 園備院ハニ井乃  
稻八間 下稻乃中あり民居と南小ありて 武内社 土人生土神と云 例祭ハ九月九日

名寄 たるまつたの系乃知産煙と見へを客りてはー 家隆

傳云當寺ハニ井乃智證大師の園基りて古ハ物産巍々たり又最勝寺  
の道智和尚は寺の座主たりはゆ小駒僧正と云ふなり

圓満院塔 若王寺の小田乃中あり五輪高サ一丈計 園備院ハニ井乃  
藏園山天神宮 若王寺ハニ井乃中あり五輪高サ一丈計 園備院ハニ井乃  
稻八間 下稻乃中あり民居と南小ありて 武内社 土人生土神と云 例祭ハ九月九日

藏園山天神宮 若王寺ハニ井乃中あり五輪高サ一丈計 園備院ハニ井乃  
稻八間 下稻乃中あり民居と南小ありて 武内社 土人生土神と云 例祭ハ九月九日

稻八間 下稻乃中あり民居と南小ありて 武内社 土人生土神と云 例祭ハ九月九日

武内社 土人生土神と云 例祭ハ九月九日

土人生土神と云 例祭ハ九月九日

例祭ハ九月九日

例祭ハ九月九日

例祭ハ九月九日

例祭ハ九月九日

例祭ハ九月九日



下狛  
若王寺

京道坂

埋む松乃

落葉

うむ

衆雲

金剛山



祝園  
春日社

山本

祝園 稱八間乃東南あり民居大街道の東西あり松園乃名義を  
神武天皇の清宇逆臣長髓彦成威しつゝ人々を隔て

靈軍あり止つて乃本津川の竟は所ふ於て討つし人々長髓彦成  
靈あり止つて乃本津川の竟は所ふ於て討つし人々長髓彦成

所乃民俗毎年正月月初乃申日より至るまで神事あり其  
祭食物振調るる一切の物事禁し禱し居るものありはれと居

毎年正月九日蛭子尊廣田社へ臨幸乃時容相の異なり  
次乃明石名所圖會ふ委しは所も則齊籠なり神事ハ繁齊し

祝園社 從五位上振授くと云 祝園神小  
春日社 乃所民居乃小あり乃祭神乃大宮土人生土神と例系を

大塚 高五回巡十之間あり  
土師 乃土師氏の人居る所ありは地小土師ありは地小

相樂 乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

本津川 呼津加和と訓と一名泉川ありハ輪韓川と云ふ上古  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

泉川橋 上古橋あり 延喜式出 棒井渡 泉川のつらなり  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

大智寺 乃本津乃大智のむぐ二町あり宗昔律ありて奉尊文殊菩薩又  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

誓願寺 乃大智乃南三町あり律宗ありて奉尊十一面觀音ハ行基  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

動觀音 乃本津の南二十町あり乃一寺あり乃觀音ハ行基  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

荒神石 乃堂あり乃本津の南二十町あり乃一寺あり乃觀音ハ行基  
乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は

乃所乃名城大和の園際あり大和の郡境あり至は



伊澤

市の坂  
春日社  
劬観

法然上人  
念  
佛  
石



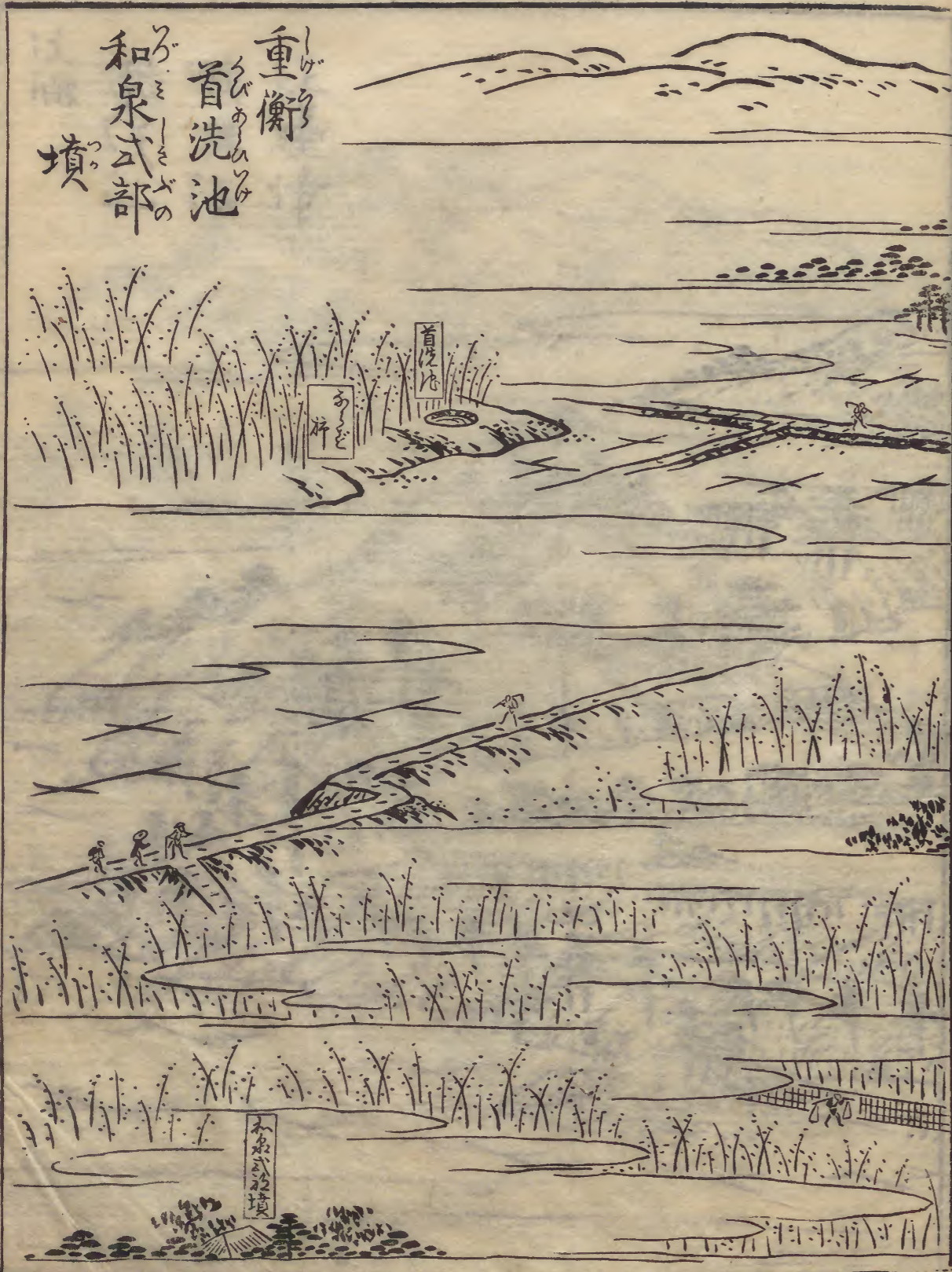
とみき糸  
むら 都の  
えり  
木村  
煤差



本津乃里の  
苗一の坂れ  
かとりわふ城  
大和の塚  
登一是より  
京都へを  
一里小道



重衡  
首洗池  
和泉式部  
墳



本津  
大智寺





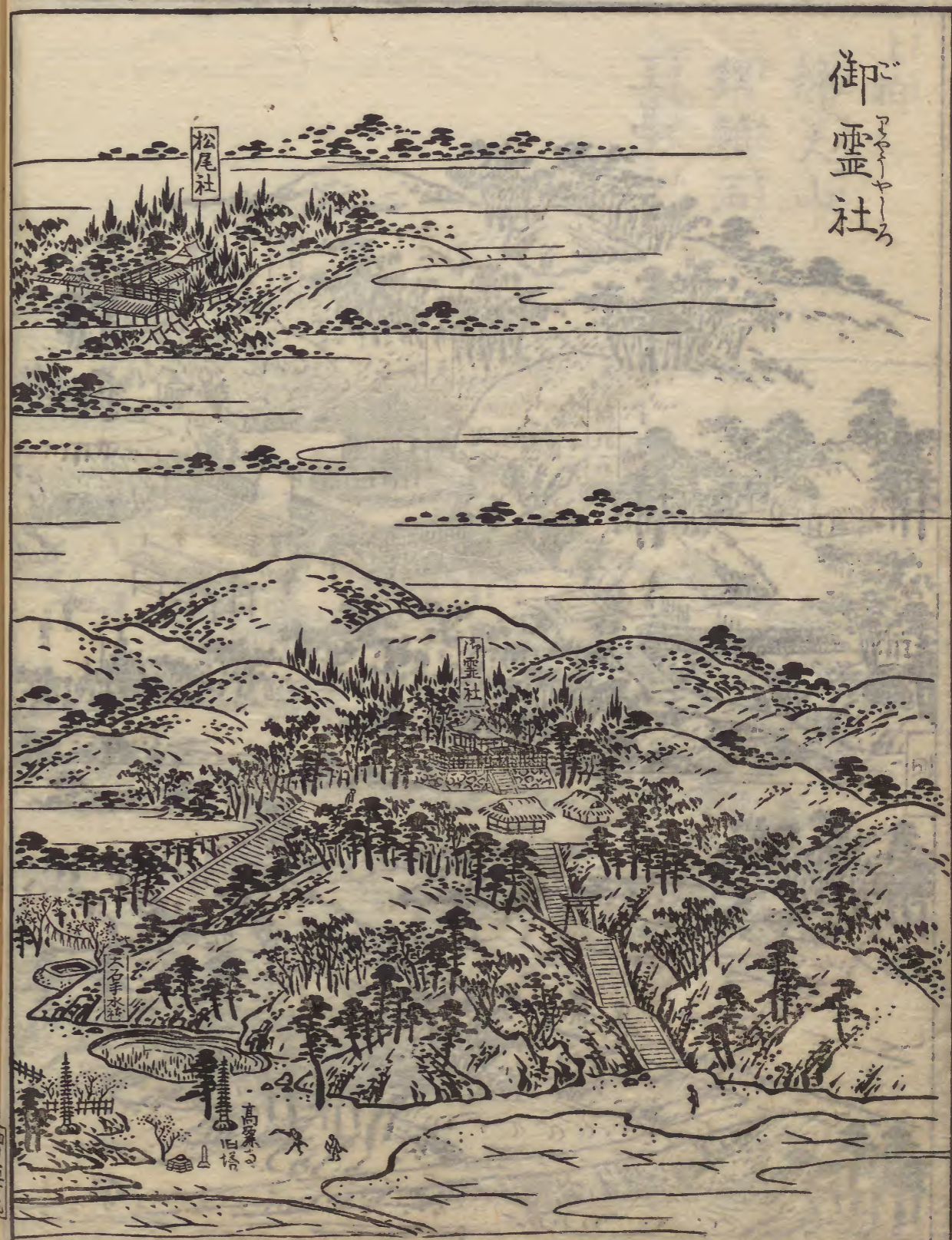
上狛  
辨天山  
興鮎石  
玉臺寺



上  
狛  
松  
尾  
社



御  
靈  
社

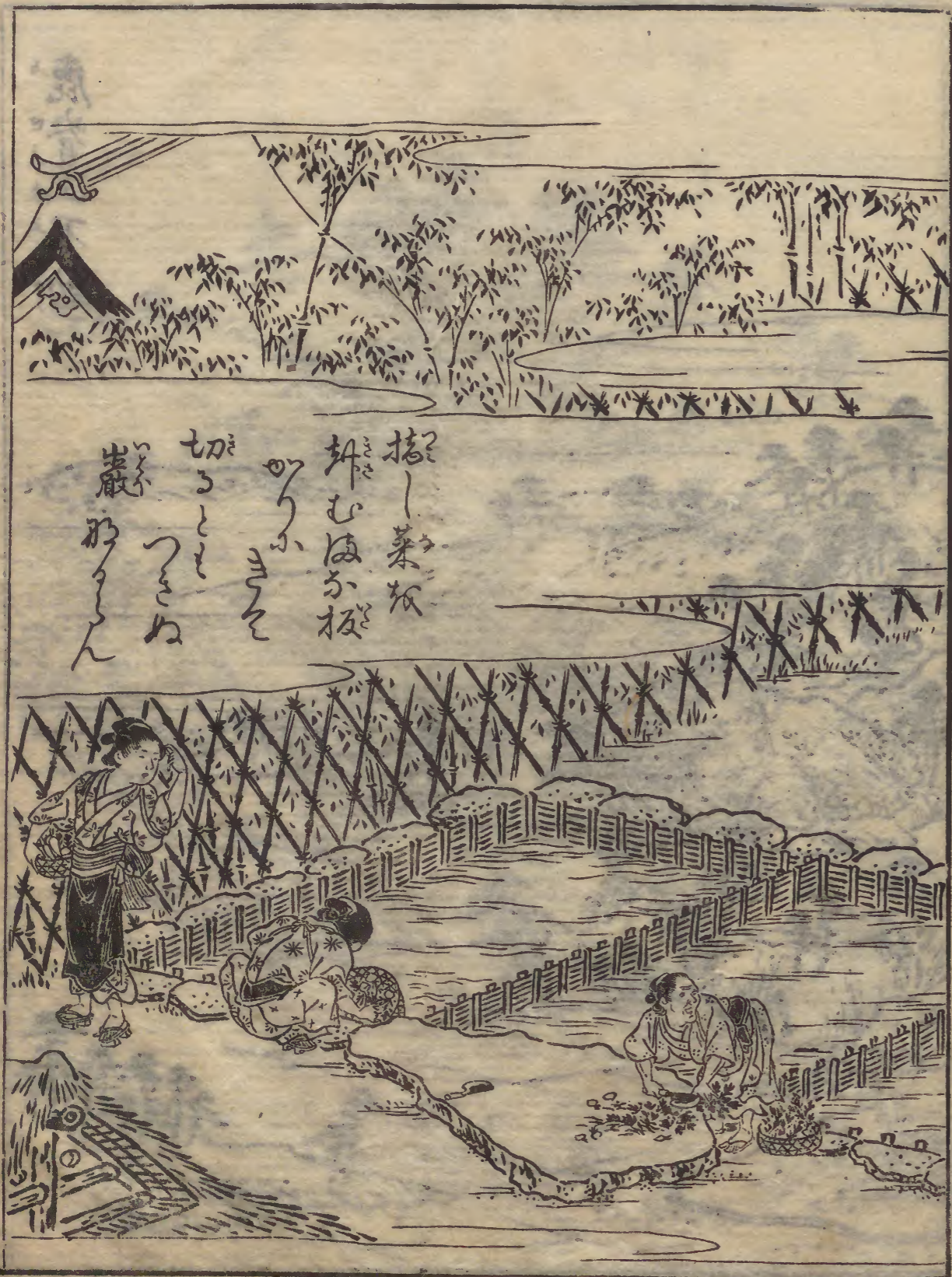


瓶原  
願應寺



上柏  
泉橋寺





掛一菜板  
 却むはふ板  
 切つとぬ  
 巖



瓶原井平尾村  
 菜切石  
 由縁前編小  
 乙へりり



瓶原 本津の巽二十町計ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原 舊記中多郷ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

御靈社 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原離宮 舊地詳し日本紀曰天平十一年二月甲午 天皇麩原の

清見川原 瓶原岡崎村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂渡口 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

法華寺野 鴨乃渡の原ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

淨瑠璃寺 法華寺村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂山 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

岡田 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂社 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

東明寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

岩船寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

願興寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原 舊記中多郷ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

御靈社 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原離宮 舊地詳し日本紀曰天平十一年二月甲午 天皇麩原の

清見川原 瓶原岡崎村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂渡口 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

法華寺野 鴨乃渡の原ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

淨瑠璃寺 法華寺村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂山 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

岡田 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

加茂社 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

東明寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

岩船寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

願興寺 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原 舊記中多郷ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

御靈社 瓶原の原村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

瓶原離宮 舊地詳し日本紀曰天平十一年二月甲午 天皇麩原の

清見川原 瓶原岡崎村ありありの原 二香原 麩原 二鹿原 等小

子 紀 又 鳴 尺 何 免 茶 心

高嶺山  
岩船寺



西塔尾  
小田原山  
浄瑠璃寺



加茂  
東明寺



加茂社

山長





笠置山麓  
栗栖天満宮

トリイ





笠置山  
 名石之細圖  
 弥勒石 十又六余  
 外 佛像石 十又六余

箕置皇居

延和元年九月 倭醍醐天皇金盃山麓に所之弥敷石の  
雙ふ其間を構り石乃傍り本丸の丸と号す南小  
増鏡云後醍醐天皇金盃山麓に所之弥敷石の  
うりき身と松風ふさとしておれぬは松風と号す 主上

左平記云箕置乃城と申山高より一戸の白雲峯に於て谷津へして万仞  
の脊道に於て石を築きてはるは石を築きてはるは石を築きてはるは石を築き  
と切て地を築きてはるは石を築きてはるは石を築きてはるは石を築き

陶山小見山夜討道

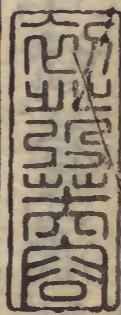
左平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ  
は平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ  
は平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ

山麓に岩の上坂さうくとして件の上り下りてはるは石を築きてはるは石を築き  
は平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ  
は平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ  
は平記云其夜を九月晦日の未半を以て目とて是を陶山小見山と云ふ

兒龍

有市村乃 稻竈 俣賀乃 剛健之 巽の方より南の大和國と

都名所圖會拾遺自叙



白虎通曰京師者何謂也千里之邑號也蓋法

日月之徑千里云古昔 桓武帝建基於宇多

邑詔之曰平安城披十二之通門立九重之廣

路街衢洞達櫛比鱗次而轟轟可謂不觀皇居

壯安知 天子尊凡其山川之形勝土地之秀

異甲乎天下矣 余幸生皇州間居洛陽而荷簞

瓢蓑笠之具翱翔於東北之丘壑逍遙於西南

之村野躡巖臨水坐於桑下憩於松陰或訪神

窟或過佛壘無不尋問名勝之地無不搜求古蹟之幽時之誘引畫工春朝齊隨見即摸之遵聞即筆之矣嚮著都名所圖會六卷然而所恨則顯古而晦今者多矣今不昭之則後世益湮沒而不能知其蹤跡豈不多憾哉由是更補脫漏重著五卷而續前編之後焉抑自

明王之制封畿建都邑已來到於千載浴于治國平天下之福委姓於山林娛心於烟霞伴苔蹊於樵童採妖艷花香誘蒼浪於漁父遭清朗

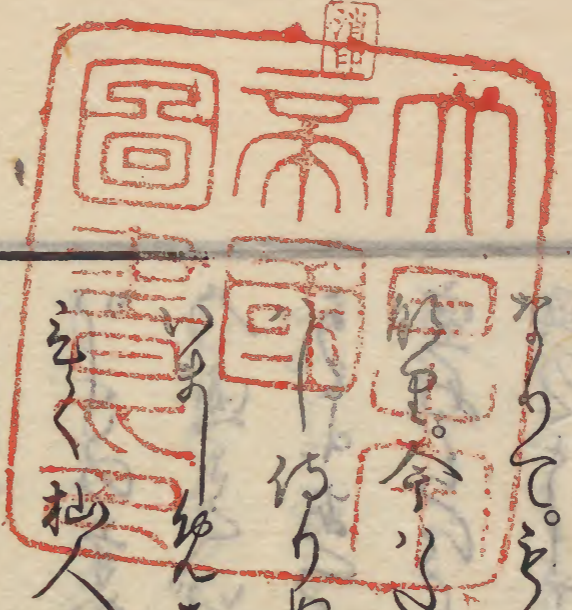
明月也近復著大和名所圖會須磨志石名所圖會等之二書然而邦畿千里山川之美景豈可竭筆端哉斑固之答賓戲或曰以無功受著述家之譏若好古蹟博雅君子與我同志則所弗享毀也昔

天明六丙午歲七月採筆於永昌堂

平安 秋里 舜福 湘夕題







の大人の上まき部よみまきつてあつていふはあつて  
 たまひも。一一一命をまきつて一一一あまひのあつた。その  
 言にまきつてあらあつて。やうく世をまきつてあつた物  
 たりて。まきつて一一一人のみやあつた。一一一やうくあつた  
 中。今つてそのまきつてあつた。拾遺五巻をあつ  
 たりぬ。まきつて物のまきつてあつた。画所のあつた  
 まきつてあつた。まきつてあつた。雪の中にあつた  
 まきつてあつた。まきつてあつた。まきつてあつた。まき  
 つてあつた。まきつてあつた。まきつてあつた。まきつてあつた。

るよ人あつた。まきつてあつた。まきつてあつた。まきつてあつた。

天明七年六月望日

浪速人春朝齋竹原信繁志る

畫工

浪花

春朝齋竹原信繁



本石町十軒店

山崎金兵衛

日本橋南三丁目

前川六左衛門

江都書林

天明七年未秋新板

寺町通五条上ル町

皇都書林

吉野屋爲八梓

名所記惣目録

山城名勝志

全部二十二冊  
各十二枚箱入

山州名跡志

全部二十二冊

都名所圖會

新板全部一冊  
古板全部一冊

同拾遺

近刻全部五冊

都細見之圖

懐中折本一冊

都名所分圖

懐中小本一冊

花洛細見圖

折本十五冊  
津藩外社松園蔵

出來新系七卷

全部七冊

都叢時記

全部七冊

京師叢覽

全部拾五冊

此書ハ山城國中社佛圖の傳記多ク松蔭の書  
歌人英普寺の經疏と枝百編の刊書故より洋  
記し春書とありて助と云ふ乃之なり  
此書ハ山城國中社佛圖の傳記多ク松蔭の書  
その由縁詳し左存の地ハ白園放冠して七卷の  
地ハ五圖と表て其虛実と辨は巡歴の便と成り  
此書ハ山城國中社佛圖名所旧法共しく  
今此風京と云ふのまに松蔭と云ふ  
此書ハ山城國中社佛圖名所旧法共しく  
今此風京と云ふのまに松蔭と云ふ  
此書ハ山城國中社佛圖名所旧法共しく  
今此風京と云ふのまに松蔭と云ふ  
此書ハ山城國中社佛圖名所旧法共しく  
今此風京と云ふのまに松蔭と云ふ



